



# Sapporo Photo

**2015**  
レポート



**E**xhibition



**W**orkshop

**L**ecture



**T**alk

**P**ortfolio  
review

# SapporoPhoto

札幌という都市・北海道という地域は、写真と共にその歴史が始まったと言っても過言ではない希有な都市であり地域です。NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワークでは、この、「写真と都市・地域」との関わりをあらためて想起させ、次世代に写真と写真がもたらす文化を継承しつづけていくために、今年度より [SapporoPhoto] を開催することとしました。

初開催となる 2015 年度は、写真評論家による基調講演、ワークショップの開催、様々な写真展示の開催を通して、多くの方々に、写真文化をご紹介します、実際に肌に触れて体感していただきました。

この冊子では実際にご覧あるいはご参加頂けなかったみなさまにも、[SapporoPhoto] のエッセンスをお伝えします。次回は、実際に会場で札幌と北海道の豊かな写真文化に肌で触れ、また体感していただければ幸いです。



Yoshikatsu Fujii

## 藤井ヨシカツ

東京造形大学で映像を学び、2008年より写真制作を始め現在は広島と東京を拠点に活動をしている。2014年に35部限定の手製本による写真集として発表した「Red String」は、Paris Photo-Aperture Foundation Photo-book Awardsを始とする数々のアワードへのノミネートや、TIME誌の選出する2014年のベストフォトブックの一冊に選出され注目を集めた。また、2015年に東京のReminders Photography Strongholdでの展示に併せて刊行した写真集「Incipient Strangers」も、Dummy Award Kasselにノミネートされるなど各国で高い評価を得た。

## 12/4

眺望ギャラリーテラス計画

[SapporoPhoto] フォトブックワークショップの講師でもある写真家・藤井ヨシカツのアーティストトーク。インドのDelhi Photo Festival 2015や各国のフォトブックフェアに参加、出展している様子作家の作品を交えて紹介。若手でありながら世界に受け入れられるフォトブックを発表し続ける秘密に迫りました。



### アーティストトーク

この日、2014年に35部限定の手製本による写真集として発表した両親の離婚がテーマという「Red String」を初めて拝見して、今まで見てきた写真集のどれにも当てはまらないあまりの自由さに衝撃を受けました。表紙はフェルトなのですが、これも経年劣化しやすい素材を使う事=家族の関係と似ていると言う事でこの素材にしているというこだわりようです。写真家は撮った写真をどう表現するのか。最終的な見せ方が大事だと思うのですが、それは写真集だったり、写真展を開催したりするのが一般的だと思うのですが、既存のやり方やセオリーに縛られる事なく、もっともっと自由に自分にあったやり方、表現方法を発想しても良いのではないかと今回のお話を聞いて感じました。

そして、藤井ヨシカツさんは広島在住です。東京でなくても世界に発信して評価されている方のお話は、北海道に住む参加者の皆の心に希望を灯してくれたのではないのでしょうか。

高橋健介 (The North Finder 会員)

## 12/5

眺望ギャラリーテラス計画

通常の写真集とはひと味違い、ハンドメイドで作成し冊子そのものが作品となるフォトブック。部数限定で制作されるフォトブックは海外では昔から高い人気があり優秀な作品は高値で取り引きされることも多いです。このワークショップでは自身の作品がTIME誌の選出する2014年のベストフォトブックの一冊に選出され、海外のフォトブックアートフェアへの出展や、数々の賞に輝く藤井ヨシカツ氏を講師に迎えました。フォトブックを完成させる段階で重要なダミー本を一折中綴じという技法で作成します。また製本だけではなく冊子そのものが作品という観点からワークショップ作成当日以前から、参加者の作品のまとめ方も丁寧にフォローしました。

### ワークショップ「作るハンドメイド写真集」

最初に聞いたとき、私のような写真の正規表現からはやや離れたところにいる人間が受講するのは如何なものかと思ったんです。ところが誘ってくれた方は、クスマさんにピッタリだと言うってくれたんです。それならと詳細を見てみようと思えば、講師の方がまずすごかった。藤井ヨシカツさん。写真を使った手製本で何度も海外で評価されているアーティストさん。そしてその手製本がとてつもない作品だったんです。コンセプト、手法、本という媒体ならでは、本自体が作品であり本でしか表現できない体験がそこにある作品。これは!と思い申込み。事前にどんな作品を作っているのか直接藤井さんに見てもらってアドバイスをいただけるのとこと。なんて贅沢なの!そしていざ受講。藤井さんのコンセプトを形にするやり方から世界の素敵な手製本の紹介、実際に本を作る実践までを体験。平面でしか考えていなかった自分の作品を手に取り、めくるという行為で形にする。視野をぐいぐい広めてくれた一日でした。世界は広く、様々な可能性があり、楽しいことがまだまだあると、ワークショップを通じて学べたこと、そしてこれからの目標がひとつ増えたこと。得難い経験が出来たと思います。サッポロフォト、これからの企画も期待しています。

クスマエリカ (フォトグラファー)



Kōtarō Iizawa

## 飯沢耕太郎

写真評論家。きのこ文学研究家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。主な著書に『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書 1996）、『デジグラフィ』（中央公論新社 2004）、『きのこ文学大全』（平凡社新書 2008）、『写真的思考』（河出ブックス 2009）、『深読み！日本写真の超名作100』（パイインターナショナル 2012）、『きのこ文学ワンダーランド』（DU BOOKS 2013）などがある。



## 12/6

### 基調講演

札幌駅前通地下歩行空間  
「北3条広場」  
(さっぽろアートステージ特別参加事業)

「日本における写真の動向－日本の現代写真を中心に」と題して写真評論家の飯沢耕太郎氏の講演会が行われた。当日は100名ほどの観客が集まり、地下歩行空間という場所柄もあり大型モニターに次々と映しだされる写真家の作品に足を止めて話に聞き入る人も多かった。北海道を写真の発祥の地のひとつと位置づけながら、横山松三郎や屋須弘平など戦前に活躍した写真家から現在に活躍する川内倫子、森村泰昌など、数多くの作家と作品に次々と話が及んだ。特に明治に択捉島で生まれ函館で一時活動した横山松三郎などは、北海道民でも知らない人も多く興味深かったとの感想も聞かれた。また、日本写真協会新人賞を受賞している若手写真家の笹岡啓子、藤岡亜弥、大和田良、村越としや、公文健太郎、斉藤麻子による多岐に渡る写真表現を海外で紹介した展覧会で、飯沢氏も講演で参加したメキシコのパチューカにあるFOTOTECA（国立写真センター）で2015年2月に行われたNuevos Horizontas展（新しい地平）の様子も紹介された。

山本顕史（The North Finder 会員）



# 「札幌 はじまりの写真」

12/4-17

眺望ギャラリーテラス計画  
(赤レンガテラス内)

## 写真展示

原野に“街”が形成されてゆく様の記録が写真と共に残る世界的にも数少ない都市である『札幌』。明治4年(1871年)から約10年の創成期に、田本研造、ライムント・フォン・スティルフリート、武林盛一の3名により撮影された写真を展示しました。



- 1 武林盛一
- 2 ライムント・フォン・スティルフリート
- 3 ライムント・フォン・スティルフリート
- 4 田本研造
- 5 田本研造

# 「札幌の古を探る」

特別協賛 (株)ニコンイメージングジャパン・(有)イーベン

## 12/5

眺望ギャラリーテラス計画  
(赤レンガテラス内)

明治4年(1871年)、開拓使本府が札幌に移り、本格的な開拓をはじめた札幌のまちを、三人の写真家たちがカメラで記録しました。一開拓の様子を撮影していた写真家『田本研造』一先進技術や知識を学ぶために明治政府が雇ったオーストリア人の写真家『スティール・フリード』一スティールフリードの機材を受け継いで札幌に定住した最初の写真家『武林盛一』札幌は、彼らによってもたらされた写真を礎として、「まちが生まれ、育ちゆく歴史」のほとんどが写真に残る世界でも有数の都市です。

この写真教室では小学校高学年のみなさんを対象に、三人の写真家が写真に残した場所の現在の姿など、札幌の町の歴史に関わる場所をバスで訪ね、最新ミラーレス一眼(Nikon 1 J5)を使用して写真を撮る基本などを楽しみながら学んでいただきました。

## 12/19-1/10

眺望ギャラリーテラス計画  
(赤レンガテラス内)

### 写真教室作品展示

子供向け写真教室で撮影された写真は子供達が1人1枚それぞれ自分で選び作品を展示した。



### 子供向け写真教室

12月5日、参加者の小学生13人が当NPO会員である写真家5名と共に、「札幌はじまりの写真」展にて展示された、開拓期の写真が撮られた場所を巡った。まず、貸出用カメラを提供してくれたニコンのスタッフより、カメラの操作方法を教わる。ほとんどが本格的なカメラを使うのは初めてで、興味津々。最初の撮影は「大友堀」と呼ばれた人工河川「創成川」沿いに北4条のホテルモントレから南2条の二条市場までを歩いた。北3条、全日空ホテル前の歩道橋上には初期の創成川の写真と説明の碑があり、ビルが立ち並び現在の街並との差を感じながら撮影した。途中には、明治後期から残る「札幌教会」があり、子供たちはカメラを向けていた。続いて現代の札幌のシンボルとも言える「テレビ塔」、札幌の基点である「創成橋」などを撮影。次に、サッポロビール博物館前に復元されているビール樽前にて、明治8年の開拓使麦酒醸造所の開業式を模して記念撮影、その後敷地内を撮影。そして、北海道庁赤レンガ庁舎の外観と内部も見学・撮影した。最後は、フジフィルムフォトサロン札幌で開催中だった当NPO主催写真展「新・北海道写真紀行」会場を見学。撮るだけでなく「写真を見せる」ということを知ってもらう機会も作った。この日撮影された写真は眺望ギャラリー「テラス計画」にて2015年12月19日より2016年1月12日まで、1人1枚それぞれ自分で選んだ作品を展示した。

中村健太 (The North Finder 事務局長)



Katsunori Saito

# 齋藤勝則

神奈川県生まれ、東海大学工学部生産機械工学科卒業。写真家・内田隆章氏に師事。1996年フォト・デザイン会社ケー・エス・ワン設立。撮影分野はジャンルなしのオールラウンド、静止画だけでなく動画撮影も行う。現在、広告（Web関連含む）、雑誌（月刊カメラマン）で活動、ニコンカレッジ講師、日本写真家協会（JPS）会員。

12/6

眺望ギャラリーテラス計画  
（赤レンガテラス内）

特別協賛 ㈱ニコンイメージング  
ジャパン

広告・雑誌などにてご活躍中の齋藤勝則氏を東京よりお招きしての1対1の写真対決、齋藤氏のポートフォリオレビュー。今後の写真活動の指針を得て頂ければ幸いです。

## ヤング・ポートフォリオレビュー

12月6日（日）午後1時から、赤レンガテラスの眺望ギャラリー「テラス計画」において、ヤング・ポートフォリオレビューが開催された。開催にあたり、ニコンカレッジ講師の齋藤勝則氏をレビューアーとしてお招きし、レビューには7名（先生2名・生徒5名）が参加した。レビューでは、参加者から3組のカラー写真（計11枚）が持ち込まれ、それぞれ約20分の中で、作者から作品についての紹介の後、齋藤先生からご講評をいただいた。

北海道においては、写真を目指す若者にとって、こうしたポートフォリオレビューはめったに無い機会であり、参加した学生と引率した先生も真剣な眼差しでレビューに臨み、齋藤先生からのアドバイスに耳を傾けていた。

また、引率の先生からも、日頃、苦慮している写真作品の作成に向けた生徒指導方法などについて、齋藤先生にアドバイスを乞う場面も見られた。最後に、齋藤先生から若い写真家達に向けての熱いメッセージを込めた総評をいただき、レビューを閉会した。

谷口能隆（The North Finder 会員）





# 北海道とのかかわりと SapporoPhoto

飯沢耕太郎

《特別寄稿》

嬉しいことに、このところ北海道の写真家たちとの結びつきが強くなってきている。

きっかけになったのは、2011年の夏に東川町国際写真フェスティバルの一貫として開催されたポートフォリオ・オーディションに、審査員の一人として参加したことで、その時にグランプリを受賞した札幌在住の山本顕史さんと知り合った。山本さんは同オーディションで準グランプリだった人見将、畠山雄剛、佐藤志保さんとともに、のちに JITTER というグループを結成して、東京で展覧会を開

催する。そのトークなどにも呼ばれて、ますます交友が深まっていった。

東川の企画は2012年以降も、赤レンガ・公開ポートフォリオ・オーディションと名前を変えて継続される。そのご縁でやはり札幌在住の藤倉翼さんやメタ佐藤さんとも知り合うことになった。今回「北海道を発信する写真家ネット」が主催する SapporoPhoto に、基調講演のパネラーとして参加することができたのも、そういう交友の積み重ねがあったからだろう。さて、北海道が日本の写真の歴史

において、とても重要な土地であることはいうまでもないだろう。幕末に函館が開港すると、当地に滞在したロシア人たちが写真術をもたらし、その教えを受けて木津幸吉や田本研造が写真館を開業する。択捉島出身の横山松三郎もロシア人から写真を学び、のちに東京・上野池之端で写真館、通天楼を開業して大いに繁昌した。明治維新後、北海道の開拓が本格的に開始されると、田本研造や札幌の武林盛一、小樽の佐久間範造らが素晴らしい記録写真を残した。スケールの大きな自然、ダイナ

ミックな四季の移り変わり、大地に根ざして生きる人々の暮らし——北海道には素晴らしい被写体がたくさんある。近年は先住民族のアイヌの伝統文化を、写真を通じて探求しようという試みもさかんにおこなわれるようになった。北海道在住の写真家たちには、この恵まれた環境を活かしつつ、さらに独自の写真文化を発展させていってほしいものだ。今後も、そのお手伝いをさせていただく機会があれば、喜んで参加したいと考えている。

飯沢耕太郎（写真評論家）



## THE NORTH FINDER

「北海道を発信する写真家ネットワーク」は、写真を通して広く北海道のイメージを高め、より深く北海道を知っていただこうと、北海道をベースに活動する写真家有志が集まって発足させた NPO 法人です。

## GRANTS

SapporoPhoto は、平成 27 年度札幌市写真文化振興事業として、札幌市の補助金により実施しました。

このレポートブックは、開催の概要を市民の皆様にお知らせするために、SapporoPhoto の事業の一環として制作・配布しています。

## CREDITS

札幌市写真文化振興事業 SapporoPhoto 2015

主催（企画・運営）：NPO 法人 北海道を発信する写真家ネットワーク

協賛・協力：株式会社ニコンイメージングジャパン

有限会社イーベン

札幌駅前通まちづくり株式会社

写真：赤塚愛美、谷口能隆、辻博希、中村健太、山本顕史

デザイン：maru studio



T H E  
N O R T H  
F I N D E R

【編集・発行】SapporoPhoto 主催（企画・運営）

特定非営利活動法人 北海道を発信する写真家ネットワーク

〒060-0807

札幌市北区北七条西1丁目1-2 SE 札幌ビル13階 イメージナビ株式会社内